

PLN2AS 使用マニュアル

本マニュアルは、Stefan Hofgaertner 氏が制作・配布している PLN2AS の使用方法に関して説明するものです。

PLN2AS は、フリーウェアとして公開されており、FS2004 の Flight Planner で制作したデータを弊社 Classic Liners Vol.2 に収録の L1011 Tristar の FMS ルートデータに変換するものです。 また、Service Pakc 1 でアップデートした Classic Liners Vol.1 の B747 シリーズの INS でも、同データが使用可能です。

使用前の準備

PLN2AS を起動するには、.Net Framework Version 1.1 がインストールされている必要があります。.Net Framework Version 1.1 をインストールされていない方は、Microsoft ダウンロードセンター (Windows Update の「管理者オプションの使用」項目を選択し、「Microsoft ダウンロードセンターの検索」をクリックする事で簡単にダウンロードセンターに行けます) よりダウンロードし、インストールして下さい。

PLN2AS を起動する場所 (ディレクトリ)

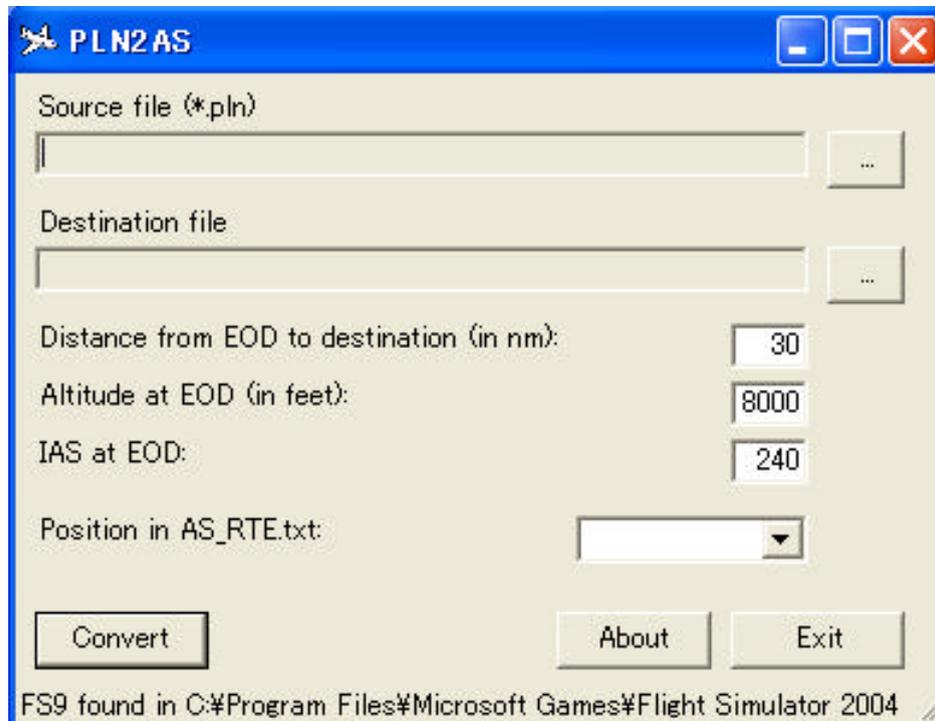
PLA2AS は、どの場所からでも実行可能なプログラムです。任意のフォルダから起動されて良いのですが、ここでは最も分かり易いと思える場所、マイドキュメント¥Flight Simulator Files¥ に解凍したフォルダをそのままコピーし使用します。つまり、起動するフォルダは、マイドキュメント¥Flight Simulator Files¥PLA2AS¥ となります。





注意：マイドキュメント¥Flight Simulator Flies¥ 内に、弊社製品の空フォルダがある場合（例：ATP Basic Flight in 下地島の場合、AS_ATP）これらのフォルダは削除されても構いません。これらのフォルダは、シーナリー登録する際にFS2004 が生成するものです。

PLN2AS のウィンドウについて



Source file (*.pln) 変換する.pln ファイル (Flight Planner で制作したもの) を選択する。右側の「...」をクリックする事で、ディレクトリから選択できる。

Destination file 変換後の route ファイルの保存名を入れる。右側の「...」をクリックする事で保存先を指定する。

Distance from EOD to destination (in nm):
作成した plan の目的空港から何 nm を EOD(End Of Descent) に設定するかを入力する。(通常 20~30nm です)

Altitude at EOD (in feet): EOD での高度を指定する。

IAS at EOD: EOD での IAS を指定する。

Position in AS_RTE.txt Classic Liners Vol.2 で L1011 の FMS が呼び出すルート一覧のどの位置に、変換したファイルを書くか? を指定する。プルダウンで選択。

Convert ボタン クリックすると、変換する。

About ボタン クリックすると、PLN2AS についての情報表示

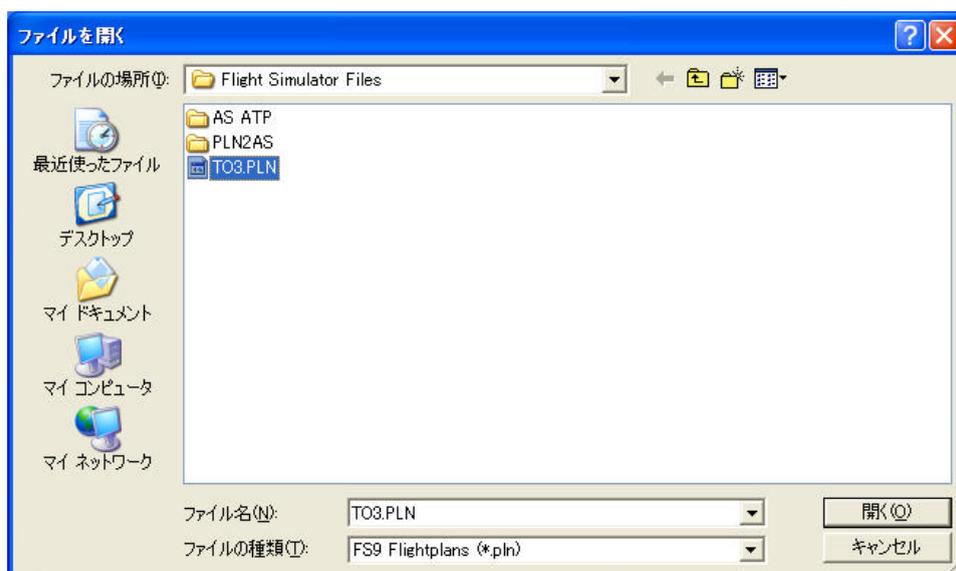
Exit ボタン クリックすると、PLN2AS を終了する。

下の行は、FS2004(FS9)がコンピューターのどの位置にインストールされているか? を表示している。図では、C:\Program Files\Microsoft Games\Flight Simulator 2004

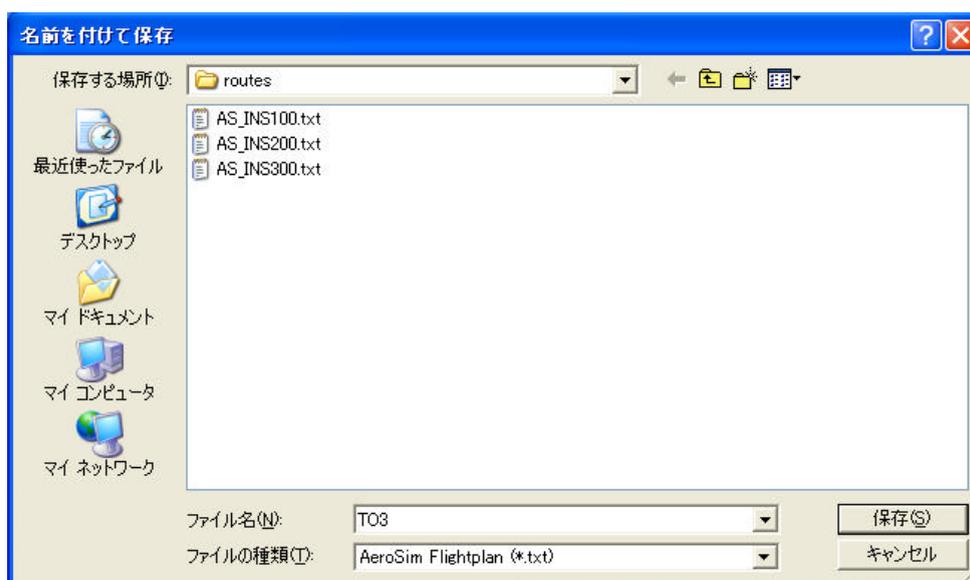
Classic Liners Vol.1 のみインストールされている場合の使用法

注意：Classic Liners Vol.1 は Service Pack 1 でアップデートされていなければなりません。

- 1 . FS2004 を起動し、フライトプランナーよりルートを作成します。ここでは、東京 - 大阪のルートをも、TO3 という名称で作成した場合を説明します。
- 2 . PLN2AS を起動し、Source file の「...」をクリックし、TO3 を選択します。



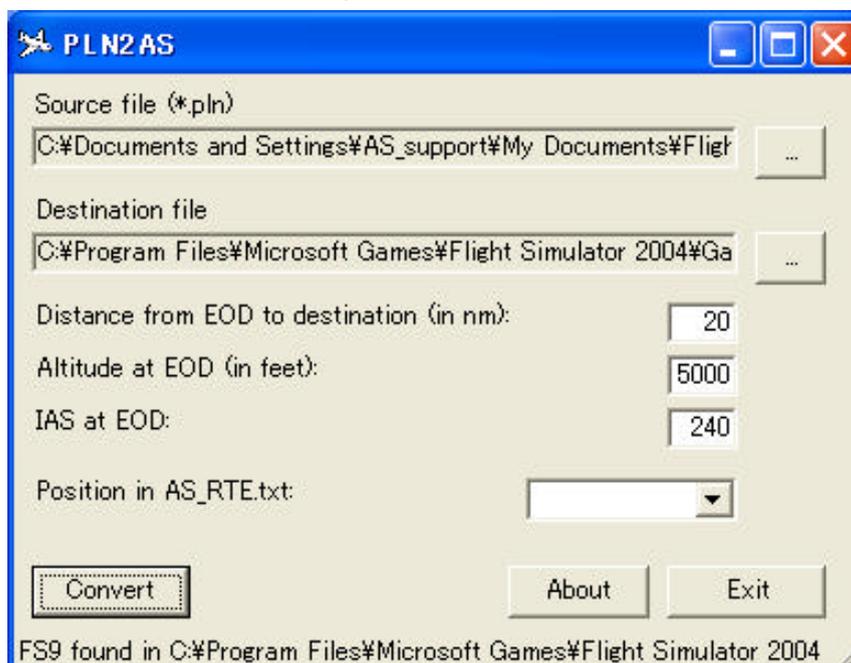
- 3 . 次に Destination file の「...」をクリックし、保存先を設定します。保存先は、C:¥Program Files¥Microsoft Games¥Flight Simulator 2004¥Gauges¥AS_CL1¥routes です。ファイル名に、TO3 と入力し、「保存」をクリックします。



下図の通りエラーメッセージが出ますが、そのまま「OK」をクリックします。



4 . EOD の項目を入力します。下図は、大阪空港から 20NM 手前を EOD とし、その時の高度を 5000ft、速度を 240kt と設定する意味です。(本設定は、Classic Liners Vol.2 の L1011 でのみ有効です)



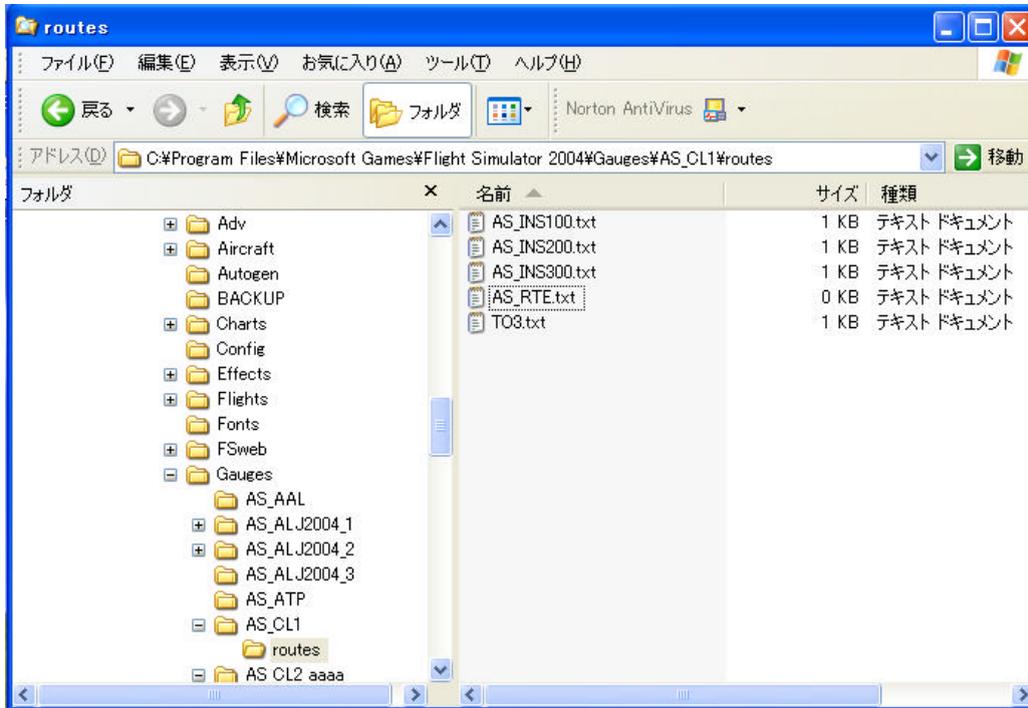
5 . Convert ボタンをクリックし、変換を開始します。下図のメッセージが出ますが、「はい」をクリックします。



変換が上手くいった事を示す下図のウィンドウが表示されますので、「OK」をクリックします。



- 6 . 変換後に、ファイルの確認をします。TO3.txt が作成されているのを確認します。また、AS_RTE.txt が作成されていますが、このまま無視して頂いて結構です。

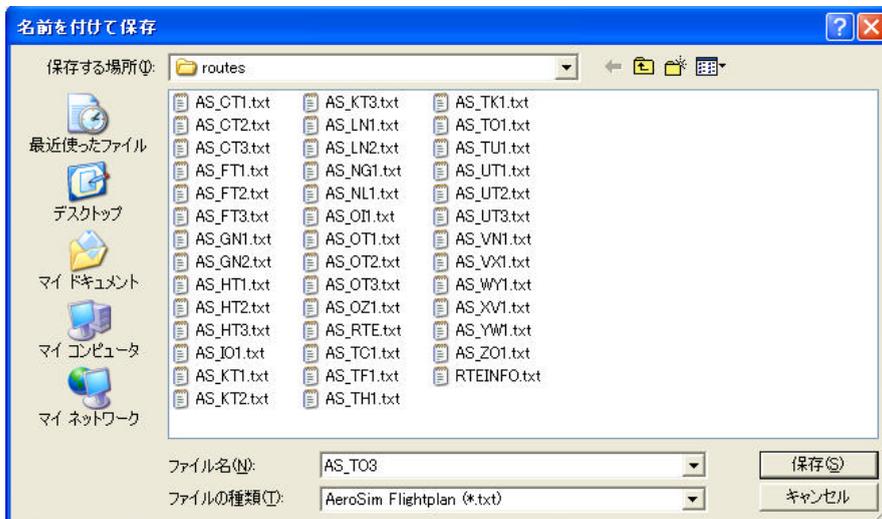


変換出来た TO3.txt を B747-100 の INS で読む場合、TO3.txt を AS_INS100.txt に名称を変更しなければなりません。AS_INS100.txt を適当な名称でバックアップし、TO3.txt の名称を AS_INS100.txt と変更します。

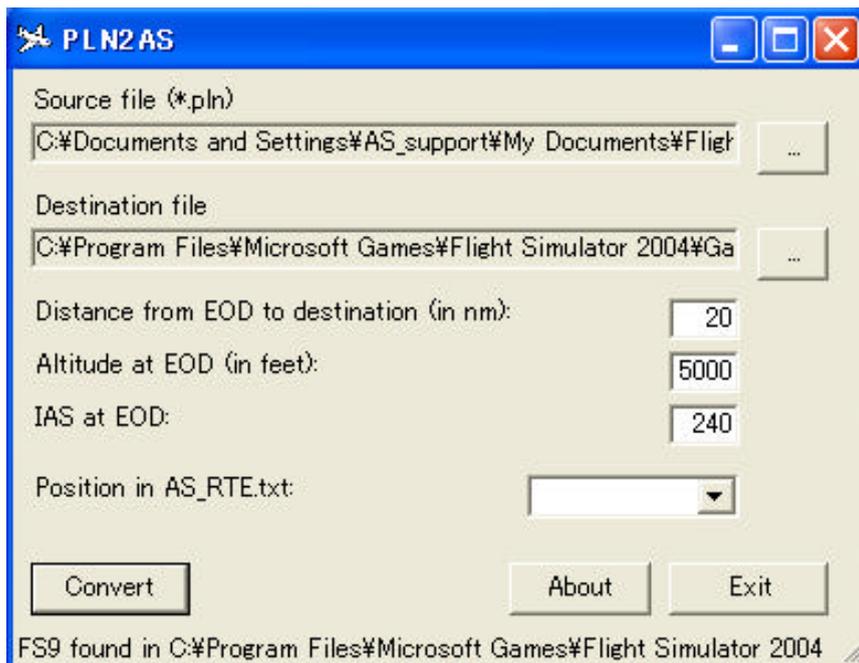
以上で、作業は終了です。Classic Liners Vol.1 の Service Pack 1 説明書を良くお読みの上、フライトをお楽しみ下さい。

Classic Liners Vol.2 がインストールされている場合の使用方法

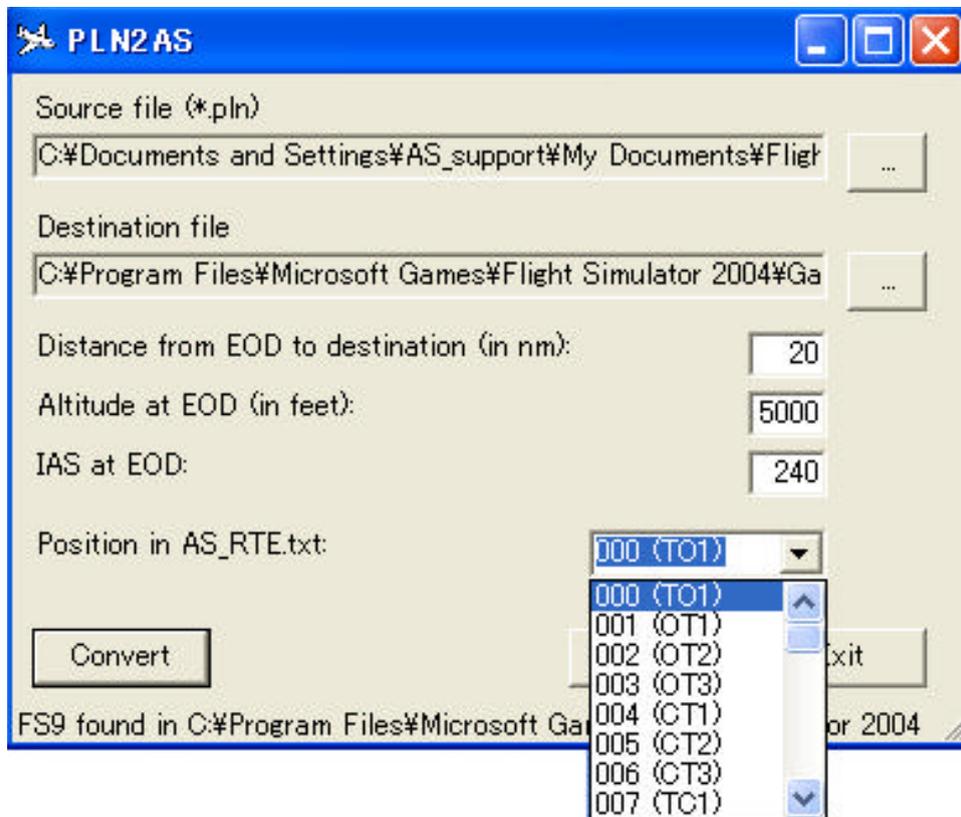
- 1 . FS2004 のフライトプランナーでプランを作成し保存します。(仮に TO3.PLN とします)
- 2 . PLN2ASを起動し、Source file(*.PLN)を指定します。(1.で保存した TO3.PLN を指定します)
- 3 . Destination file を指定します。「...」をクリックすると自動的に L1011 のルートデータが保存されているフォルダが開きますので、AS_TO3 という名称で保存します。



- 4 . EOD の設定を行います。詳しくは P.5 の 4 . をご覧下さい。



- 5 . Position in AS_RTE.txt: の をクリックし、プルダウンを表示させ、どのフライトファイルの位置と入れ替えるか? を選択します。今回は、000(TO1)を選択します。



- 6 . Convert をクリックし、変換をします。変換が正常に行われると下図が表示されますので、「OK」をクリックします。



以上で、Classic Liners Vol.2 の L1011 のルートデータの変換が終了しました。

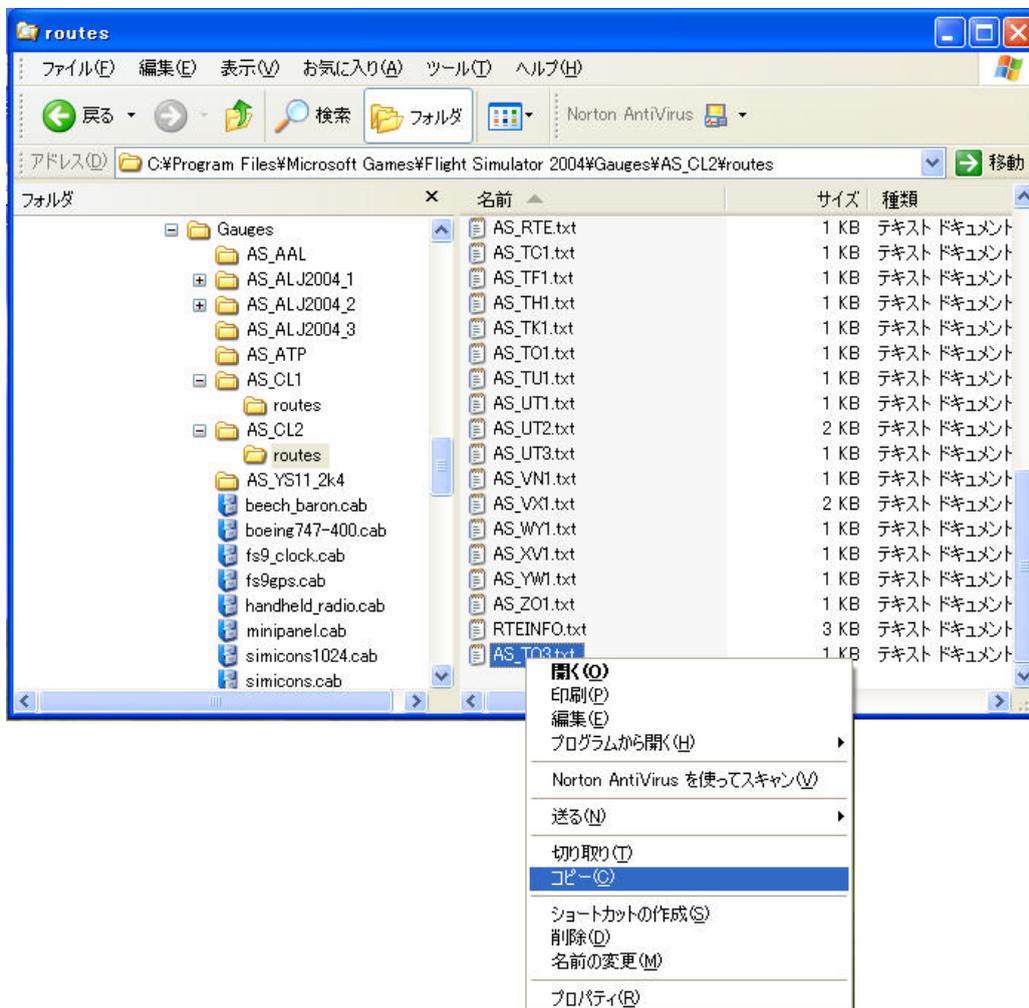
Classic Liners Vol.1 、 Vol.2 とともにインストール済みの場合

Classic Liners Vol.2 での使用法にて、ルートを変換していきます。

これらのデータを、Vol.1で使用したい場合、Vol.2のデータを Vol.1へコピーして使用していくのが簡単な方法です。

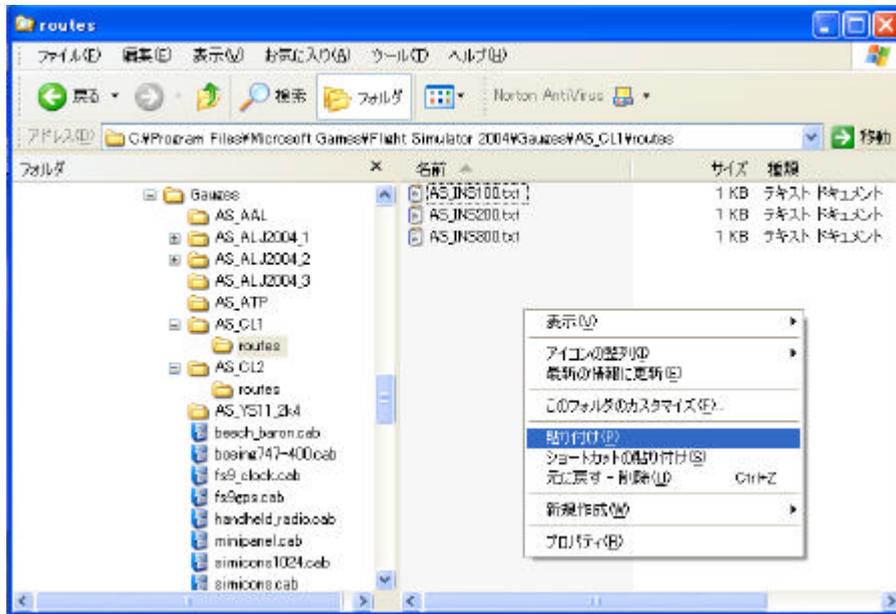
- 1 . Classic Liners Vol.2 のルートファイルが保存されているフォルダから、任意のルートファイルをコピーします。保存されている場所は以下の通りです。

C:\Program Files\Microsoft Games\Flight Simulator 2004\gauges\AS_CL2\routes



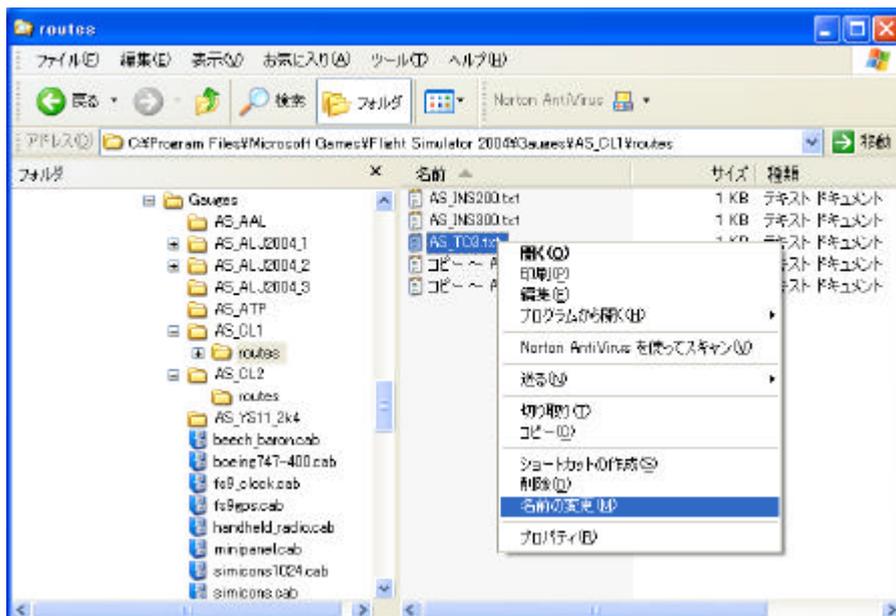
2. Classic Liners Vol.1 のルートデータが保存されている場所に、1. のルートデータファイルを貼り付けます。場所は、以下の通りです。

C:\Program Files\Microsoft Games\Flight Simulator 2004\gauges\AS_CL1\routes

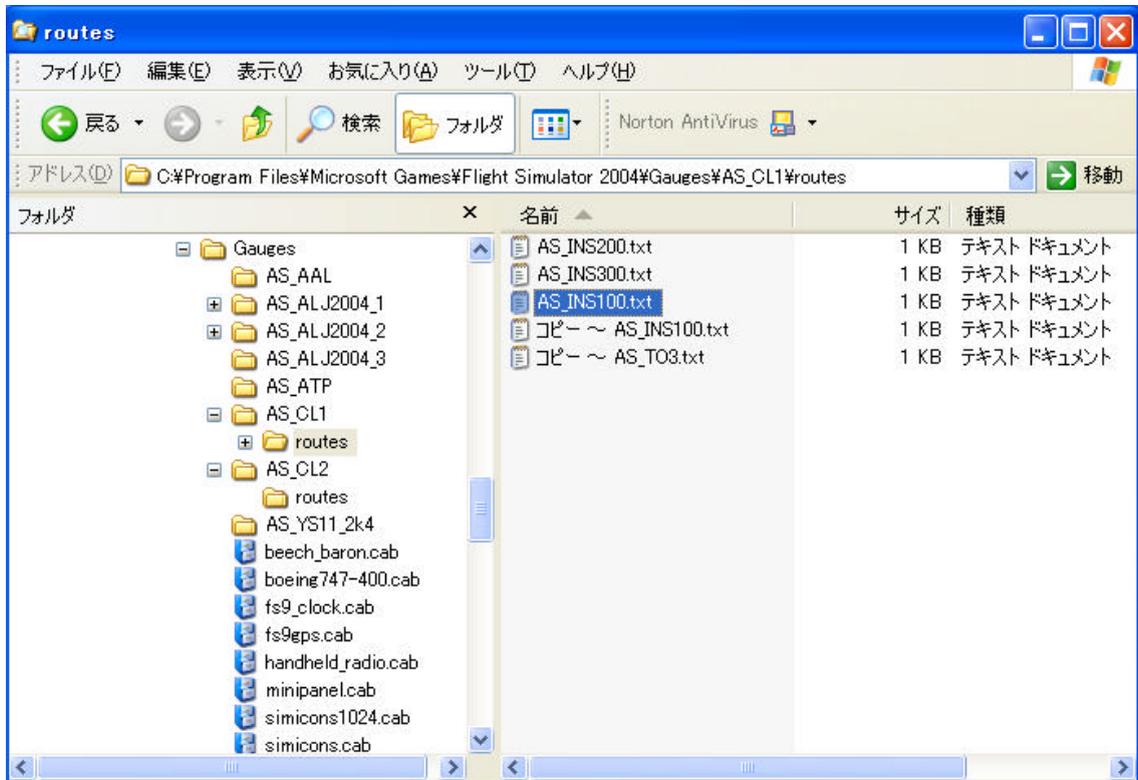


3. 次に、変更したいファイルのバックアップをとります。例は、AS_INS100.txt を変更する例です。

まず、AS_INS100.txt を選択し、右クリックで「コピー」、「貼り付け」と操作する事で、「コピー ~ AS_INS100.txt」が出来ます。コピーを作成後、AS_INS100.txt は削除します。同じ様にして、AS_TO3.txt もバックアップをとっておきます。



4 . AS_TO3.txt を選択し、右クリックして「名前の変更」にて、AS_INS100.txt とします。



以上で、Vol.2 のデータがそのまま Vol.1 でも使用できます。

謝辞 PLN2ASの作者であり、日本語解説を付けての配布を許可下さった
Stefan Hofgaertner 氏にこの場をお借りして、お礼申し上げます。

以上